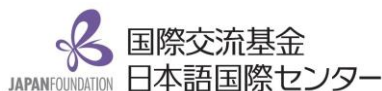


日本語教育と文化

Unit 2 実践 Part 2 授業に文化を取り入れる



はじめに

みなさんはどんな風に授業に文化を取り入れていますか。取り入れるとき、何か注意していることがありますか。パート1では文化のトピックについて学びましたが、パート2ではそれらのトピックで授業を行うときに、どんな方法があるか、どんな注意点があるかを学びます。

Part2 の目標

授業に文化を取り入れる方法や注意点がわかる

1. 文化の授業の注意点

みなさんは自分の授業で、次のような説明の仕方をしていませんか。



「日本は安全な国です」
「日本人は親切です」
「日本は」「日本は」「日本は」
「日本人は」「日本人は」・・・

このような説明では、学習者がステレオタイプをもってしまうかもしれません。ステレオタイプは、思い込みや誤解、差別、^{ごかい}偏見、^{さべつ}偏見が生まれる可能性があるから注意が必要だということをUnit1で勉強しましたね。そして、文化は人や場所によっても違うこと、文化は変化することもUnit1で勉強しました。では、授業ではどうすればいいでしょうか。

一つの答えは、学習者が自分で考え、自分で文化的なことに気づいたり、見つけたりできるようになることを目指す方法です。教師が説明するのではなく、教師は質問をして、学習者が自分で発見できるようにサポートするのです。

2. 授業例：自己紹介

パート1では授業への文化の取り入れ方の例として3つのタイプを紹介しました。ここでは、タイプ1（日本事情・日本文化という科目で教える）、タイプ2（これまでの授業の中に取り入れる）の両方で使えるような授業の例として、「自己紹介」をテーマにしたものを紹介します。自己紹介は日本語の授業ではきっとどのクラスでも必ず勉強する内容でしょう。自己紹介で必ず紹介する「名前」は、とても文化的な^{ようそ}要素が多いといえます。

(1) 質問をする

この「名前」をトピックに授業ではどんなことができるでしょうか。先ほど、教師が説明するのではなく、学習者に自分で考えさせ、発見させることが大切だということを学びました。下の質問例を見てください。この質問を通して、学習者はどんなことを考え、どんなことに気づくでしょうか。

- 日本人の名前について、知っていることがありますか。
- 私たちの国にはよくある名前（ファーストネーム）、流行の名前がありますか。
- 私たちの国の人の名前には、男女で違いがありますか。
- その名前には、どんな意味がありますか。
- 日本ではどんな名前に人気があるでしょうか。男女で違うでしょうか。

質問を通して学習者が考えること・気づくこと

これらの質問では、日本の名前だけではなく、自分たちの国の名前についても考えさせていますね。そして、このような質問は、正しい答えが1つというわけではありませんから、学習者といっしょに考えて、意見を出し合っていくことができます。さらに、データを使って、もっと深く「名前」について考えることもできます。

(2) データを使う: 名前ランキング

日本の生命保険会社が行った調査結果のデータがあります。このデータを見ながら、みなさんもちょうと名前について考えてみてください。

名前ランキング

2019 年(令和元年)

【漢字ランキング】

男の子	女の子
1位 蓮	1位 凜
2位 陽翔	2位 陽葵
2位 新	3位 結愛
4位 湊	3位 杏
4位 蒼	5位 紬

【読み方ランキング】

男の子	女の子
1位 はると	1位 めい
2位 そうた	2位 ひまり
3位 みなと	3位 はな
4位 ゆうと	3位 りん
5位 りく	5位 さくら

1989 年(平成元年) 【漢字ランキング】

男の子	女の子
1位 翔太	1位 愛
2位 拓也	2位 彩
3位 健太	3位 美穂
4位 翔	4位 成美
5位 達也	5位 沙織

1959 年(昭和 34 年) 【漢字ランキング】

男の子	女の子
1位 誠	1位 恵子
2位 修	2位 久美子
3位 隆	3位 智子
4位 徹	3位 美智子
5位 茂	5位 由美子

データ出典: 「明治安田生命の生まれ年別の名前調査」

- ① 「漢字ランキング」と「読み方ランキング」の 2 種類があるのはどうしてでしょうか。
- ② わたしたちの国にはどんな名前のランキングがありますか。
- ③ 2019 年の「読み方ランキング」を見てください。男の子の名前、女の子の名前に何か特徴がありますか。
- ④ 2019 年、1989 年、1959 年の「漢字ランキング」を見てください。どんな変化がありますか。(漢字は読めなくても大丈夫です)
- ⑤ 2019 年、1989 年、1959 年の「漢字ランキング」を見てください。同じ漢字がどのくらいあるか、探してみましょう。(漢字は読めなくても大丈夫です。形を見てください)
- ⑤ よく使われる漢字の意味をインターネットなどを使って調べてみましょう。また、どうしてその漢字を名前に使ったのか、考えてみましょう。

名前ランキングの調査では、人気の名前の背景^{はいけい}についても調べています。次の説明を読んで、自分の国・地域の名前と比べてみてください。

人気の名前^{はいけい}の背景

- 元号^{げんごう}（令和^{れいわ}、平成^{へいせい}、昭和^{しょうわ}など）が変わると、その漢字を使う傾向^{けいこう}

例）【昭和初期^{しよき}】男の子：昭二（しょうじ）、昭（あきら）、昭三（しょうぞう）

女の子：和子（かずこ）

【平成初期^{しよき}】男の子：翔平（しょうへい）など「平」を使った名前

- 話題になった人と同じ漢字を使う

（皇室関係^{こうしつ}、歌手や俳優^{はいゆう}、スポーツ選手、漫画の主人公など）

- 男女の名前のイメージの違い

男の子：90年代後半から大自然をイメージする名前が人気（翔、樹、海、翼など）

女の子：花や草木をイメージした名前、「和」^{れんそう}を連想させる名前

質問 ① わたしたちの国・地域ではだれが名前をつけることが多いですか。

② 名前をつける人は、どんな気持ちで、どんなことを考えて、名前をきめるでしょうか。

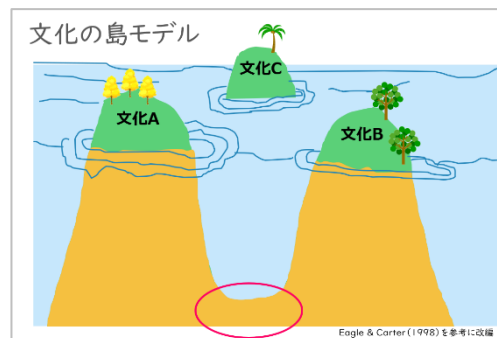
このような情報があると、さらに名前についていろいろな方面から考えることができますね。みなさんの国・地域ではだれが名前をつけますか。どんな気持ちで名前を決めるでしょうか。日本では、両親が名前を決めることが多いです。両親はどんな気持ちで、自分の子どもの名前を考え、決めるのでしょうか。こんな点から、日本の人の「名前をつける」という行為^{こうい}について考えることもできますね。

なお、この「人気の名前^{はいけい}の背景」の資料は、教師が学習者にわかる言語に翻訳して使ったり、学習者にわかる言語で紹介したりするといいですね。大切なことは、この情報を使って、学習者がもっと深く考えることです。

(3) この授業例で学習者が学ぶこと・気づくこと

この授業は「名前」という見える文化をきっかけにして、たくさんの質問を中心に学習を進める方法でした。これらの質問の答えを考えながら、学習者は「社会的な変化が名前^{えいきょう}に影響するのか」「男女による名前のイメージの違いは、国・地域を越えて共感^{きょうかん}できるのか」「名前にこめられる意味^{おも}・想いには共通性があるのか」というようなことを考えるでしょう。これは、Unit 1

で勉強した「文化の島モデル」の海の底の深いところでつながっている点を探している授業だといえるでしょう。つまり、「名前」という見える文化は国・地域によって違いますが、名前の背景にある文化を探していくと、共通点が見つかるということです。



また、このような授業を通して学習者は「名前っておもしろい!」と感じるようになり、新しくだれかに出会って自己紹介するとき、相手の人の名前の意味に興味をもったり、その意味を聞いて、「この人の家族が大切にしているのは、こういうことなんだ」というように、その人だけではなく、その人の家族のもつ価値観などにも関心をもつようになるかもしれません。このように、相手の文化に興味を持ったり、相手の文化を知りたいという気持ちがもし高くなつたとすれば、それは学習者の「異文化理解能力」につながったと考えられるでしょう。

3. 授業を考えたときのヒント

(1) 3つのP

「自己紹介」の授業例のような授業を考えるときに参考にできるのが、「3つのP」というモデルです。「Practice（習慣、行動など）」「Products（見えるもの）」「Perspectives（考え方、価値観など）」の3つの視点で文化を考えるという方法です。

このうち、「Practice」と「Products」は「見える文化」といえます。授業を考えるときには、ただ「見える文化」として「Practice」や「Products」を紹介するだけでなく、その背景にある考え方や価値観などの「Perspectives」、つまり「見えない文化」を探ろうとすることを提案しています。

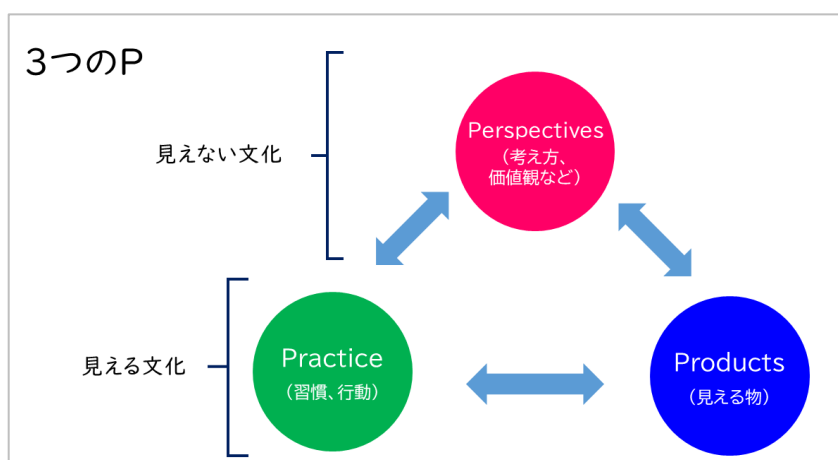


図1 3つのP 出典:国際交流基金(2010:15)を基に作図・改変
原典:アメリカの『21世紀の外国語学習スタンダード』

上の授業例では、「見える文化」として「名前」を取りあげながら、その背景にある考え方として、名前の意味や名前にこめる想い、名前の変化と社会の関係などについて考えてきたといえます。こんな風に、見える文化を取りあげて、「なぜ」「例えば？」と考えていくような授業を行うのが、一つの方法といえます。

(2) その他の小さな工夫

そのほかにも、授業でできる小さな工夫はたくさんあります。

① 写真を見せるとき

日本の写真を見せるときに、写真を 1 枚だけ見せる場合と、複数見せる場合では、どんな違いがありますか。

<例 1: 寝室>



<例 2: 朝ごはん>



1 枚だけ見せると、もしかしたら学習者は日本人はみんなふとんで寝ているとか、朝ごはんには魚を食べる、というように、理解してしまうかもしれません。ですから、写真を見せるときには、次のことに気をつけるといいでしょう。

- ・ 複数見せる
- ・ 複数を選ぶときには、地域差や個人差を意識する

②話したり、自分の写真を見せたりするとき

話す時も、「日本人は～～です」「日本では～～です」「みんな、そうです」のような説明をするのではなく、自分の目で見た、自分の知っている文化だということをはっきりと伝える方法があります。例えば、次のような紹介の仕方です。

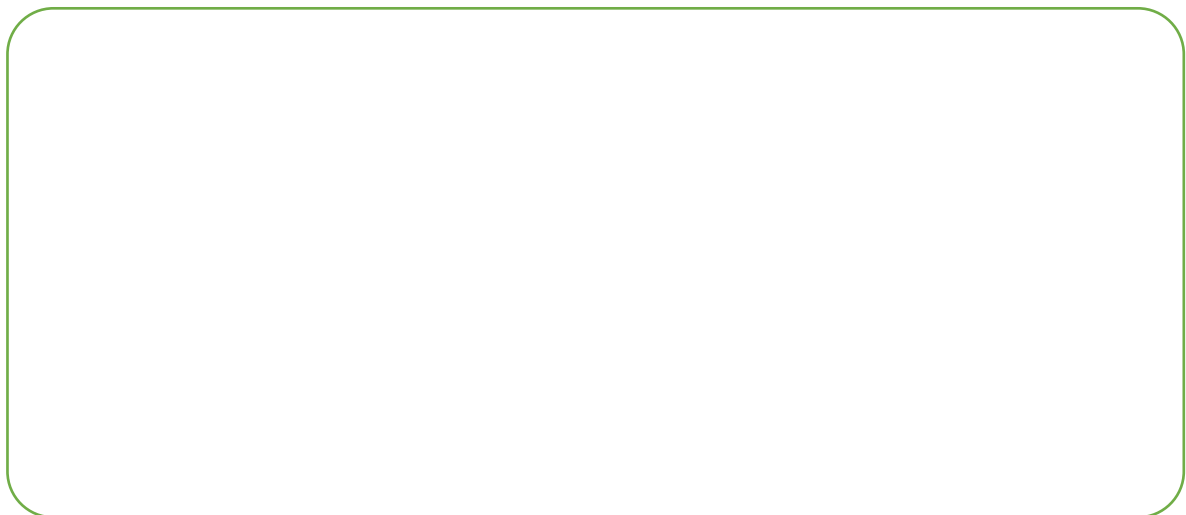
- ・ 私の知っている A さんは～します。でも B さんは～しません。
- ・ 私が日本に行ったときは、～でした。でも、今はわかりません。／他の場所はどうか、わかりません。
- ・ 今、日本では～に人気があります。(＝日本人が全員好きかどうかはわからない)

このように、教師が日本文化を^{こていてき}固定的にとらえないで、「文化は人や場所によって違う」「文化は変化する」ということを理解して話すことは、授業で簡単にできる小さな、でもとても大切な工夫です。

4. まとめ

このパートでは、日本語の授業に文化を取り入れる方法やそのときの注意点について学んできました。このパートで学んだことをふり振り返りながら、自分の授業でやってみようと思うこと、気をつけようと思うことを、自分のことばでまとめてみましょう。

このタスクができれば、このパートの目標は達成です。



■ このパートの参考文献と参考サイト

- ・ 石井敏・久米照元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人(2013)『はじめて学ぶ異文化コミュニケーションー多文化共生と平和構築に向けてー』有斐閣
- ・ 国際交流基金(2010)『日本事情・日本文化を教える』(国際交流基金 日本語教授法シリーズ7) ひつじ書房
- ・ 明治安田生命「明治安田生命の生まれ年別の名前調査」
<https://www.meijiyasuda.co.jp/enjoy/ranking/index.html>